



森のなかま

2019年4月号

NO. 132 (継続277号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

第10回森林文化講演会 「緑のダムを考える」 ～科学者が考える森と人間の関係～

講師 ^{くらし}蔵治 ^{こういちろう}光一郎 氏 (東京大学院農学生命科学研究科演習林 教授)

日:平成31年2月17日(日) 場所:桜美林大学 PFC

<記 森林文化部会 内野 ミドリ 9期>

蔵治光一郎氏を講師にお迎えした森林文化講演会は、参加者75名とほぼ満席の盛況でした。配布資料には、「話の流れ」として次の項目がありました。

1. 森に降る雨はどこへ行くのか
2. 森林の「作用」と、人間から見た「機能」
3. 「緑のダム」という神話
4. 植林神話:木を植えると水は増えるのか
5. 「森の健康診断」と、見えてくる課題
6. 所有権の壁を超えるアイデアの必要性
7. 流域圏森林自治による「森林業」の復興を
8. 森と、水と、つながる社会へ



講演全景(パノラマ撮影)

森林の作用(メカニズム、機構)と機能(サービス、恵み)についてのお話では、自然界における生態系として健全な水資源を「作用」といい、保水作用、蒸発作用など。人間社会として健全な水循環を「機能」といい、作用のうち人間にとって有益なもの水源涵養機能、雨水流出抑制機能、水質浄化機能など。森林インストラクターとして、機能ばかりを森林のはたらきと説明していたことに気づき、森林の見方も奥が深いことを知りました。また「緑のダム」についても、今までの考え方を少し改めることになりました。この部分では、理解の仕方も様々で講師の話が腑に落ちない方もいたようです。

森林は、私有林であってもその森林の作用や木材生産・林産物を除く公益機能は広く一般の人の暮らしに影響を及ぼします。特にダムの上流部分の森林の整備はダムの寿命にも影響するとか、森林を共通の財産と考えて整備を進めていく必要を感じました。森と水と人の暮らしのつながりを広く一般の方に普及啓発する森林インストラクターの役割を再認識するとともに、これから導入される森林環境譲与税の活用にもかかわってけると良いと思いました。

講師の歯切れのよい分かりやすいお話と、エネルギーに満ちたパワーが会場いっぱい広がって10周年に相応しい大変有意義な講演会でした。

この森林文化講演会が10回(10年)続きましたのも、神奈川県他の後援、桜美林大学の会場提供など多くの関係機関の協力をいただき、また皆さまからご支持・ご参加いただいたおかげと感謝しています。



講演を終えて

(写真撮影:
広報 松本)

後援:神奈川県、相模原市、神奈川県森林協会、(公財)かながわトラストみどり財団、神奈川新聞社
協力:桜美林大学